

1年10カ月、62カ国の旅

文化、伝統、宗教に触れる



岡野さん

宇部市八王子町の岡野大輔さん(29)が、1年10カ月にわたる世界を巡る一人旅を終え、このほど宇部に戻った。アジアを振り出しに、中東、欧州、南米、中米、アフリカ地域の62カ国を訪れ、各国の文化、伝統、宗教などに触れた。

学生時代は国内、社会

八王子町の岡野さん、来月写真展

人になつてからは海外にも出向くなど、もともと旅行好きの岡野さん。宇部高専機械科を卒業後、専門学校を経て消防士になり、宇部西消防署などに勤務していたが、3、4年目ごろから、短期間の「海外旅行ではなく、長期間での「世界旅行」への思いが強くなった。夢だった消防士を辞めて旅するのは、相当悩んだが、短い期間で各国の首都などに行き表面を見るのではなく、一定期



エチオピアのハマール族 (岡野さん提供)

間滞在し、地方など奥地に入つてその国の実態を肌で感じたいという願望が勝り、2011年3月に退職。在職中ためていた400万円を資金とし世界旅行に出ることを決めた。

ウガンダでは、孤児院でボランティアをして、忘れられない思い出ができたほか、毎日水を遠くまで取りに行く子供たちを見て、水の大切さを痛感。東チベットでは、伝統的な埋葬方法という「鳥葬」を見学し、前職で死と向き合うことは多かつたが、衝撃を受けた。一番印象に残つた美しい景色は、ボリビアのウユニ塩湖、おもしろかつた料理は、ペルーのイカスミパスタを挙げた。

下関市からフェリーで韓国に渡り旅はスタート。衣類や薬、パソコンなど約30kgの荷物を入れたバックパックとサブバッグを持ち、バスと鉄道を中心に移動。各国での平均滞在期間は1週間、ほとんどは安価なドミトリイを利用した。右手小指を骨折し、インドと中国で手術をするアクシデントはあつたが、金品盗難などのトラブルに遭遇することはなかつた。

「仕事を続け、安定した生活という選択肢もあつたが、後悔していない。だ熱い海外への思いを語つた。岡野さんが各国で撮影した写真の展示会が、北琴芝のbarber w akazoで6月8、9日に開かれる。8日は午後7時から午後10時まで、9日は午前10時から午後5時まで。問い合わせは同店(電話21-11862)へ。

都市ではなく「地方」にこだわり

62)へ。(杵永)



ボリビアのウユニ塩湖 (岡野さん提供)